

- 人口：260,393人(-46)
男 132,244人 女 128,149人
- 世帯：104,815世帯(+40)



●発行 平塚市 ●編集 広報・情報政策課
〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号
電話 0463-23-1111 FAX 0463-23-9467
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/>
●発行部数 99,000部(毎月1日・15日発行)

子ども記者が取材しました

なぞ

平塚八景 謎 解きの旅

湘南平や七国峠、平塚海岸から見た夕映え…。昭和57年の平塚市制50周年を記念して、市民のみなさんから選ばれた平塚の景勝地が平塚八景です。それぞれに違った魅力を持つこの八景を訪れたことがある方も多いのではないのでしょうか。

今回の広報ひらつかでは、公募で選ばれた小学生たちが、広報紙づくりに参加する「子ども記者」として大活躍。広報ひらつかの編集長から「特命」を受けて、平塚八景にまつわる謎や言い伝えを調査しました。さて、その結果は……。



子ども記者のみなさん



△左・多田恵さん、中央・原和也さん、右・竹本良嬉さん

▷右佐藤愛奈さん 左井内瑞穂さん



▽左・五十嵐将紀さん、中央・福永達哉さん、右・早川康輝さん



◁左矢島望海さん 右小長井愛さん



- | | |
|--|----|
| ⑧ 森の前鳥神社
「ピンクの洋館」の謎を解け
幸せの四つ葉の松を探せ | 5面 |
| ⑦ 八幡山公園
「ピンクの洋館」の謎を解け | 5面 |
| ⑥ 湘南平
湘南平のてっぺんを探せ | 4面 |
| ⑤ 湘南潮来
相模川に沈んだレールを探せ | 4面 |
| ④ 平塚砂丘夕映え
海岸に輝くダイヤモンドを探せ | 3面 |
| ③ 霧降りの滝・松岩寺
吉沢の山で伝説の巨石を探せ | 3面 |
| ② 七国峠・遠藤原
土屋に伝わる供養松の伝説を追え | 2面 |
| ① 金目川と観音堂
観音様の伝説を追え | 2面 |

八つの謎を解き明かせ

子ども記者が受けた特命はこれだ！



左のバーコードから犯罪発生などの緊急情報をお知らせする「ほっとメールひらつか」に登録できます



広報ひらつかは古紙配合率100%の再生紙を使っています



暗やみから仁王様が登場！

観音様の伝説を追え

その① かなめがわ かんのだう
金目川と観音堂

○広報編集長 「君たちは金目観音を訪ねて『観音様の伝説』を解き明かしてきなさい」
○子ども記者 「伝説って、何だかおもしろそう！」

住職さんが現れました。
「わたしたち、観音様の伝説を追っているんです」
「そうか、そうか」
住職さんは、わたしたちに観音様の話をしてくれました。

わたしたち二人は「観音様の伝説」を解き明かすため、南金目にある金目観音にやってきました。すぐ前を金目川が流れていて、のどかなところでした。門をくぐって境内に入るとき、だれかの視線を感じたような気が…。見上げると薄暗い門の中から大きな仁王様がわたしたちを見下ろしていました。

正面にある観音堂には、たくさんのお祈りのぼりが立っていて、「金目山光明寺」と書かれた看板が掛かっています。
「観音様の伝説ってどこに隠されているんだろっ？」

「観音堂の中かな？ でも勝手に入ったらしかたないし…」
「どうしていいのかわからないでいると…」
「君たち、何か用かい？」



昔は金目のことを「かない」といったそうです。それで観音様は金目にまつられたんですね。
「観音様はいまどこにいますか？」



「これがその観音様？」「いや、この奥の厨子の中にいるんだよ」

金目観音(南金目 896)
バス 平塚駅北口から、秦野駅行き・東海大学行きなどで「金目駅」下車徒歩3分、大人片道340円



わたしたちが調べたよ！

矢島望海さん
(金目小学校 6年)

小長井愛さん
(富士見小学校 5年)

七国峠・遠藤原 土屋に伝わる 供養松の伝説を追え



○広報編集長 「君たちは、土屋に伝わる『松の伝説』を調べなさい」
○子ども記者 「伝説って何？どんな松なんだろう？」

伝説を調べるため、わたしたちはまず七国峠に近いびわ湖青年の家に泊りました。管理人は、青少年がキャンプなどをする場所なのですが、土屋周辺をハイキングする人たちが休憩したり、お弁当を食べたりする場所としても利用させてもらっています。

「土屋に伝わる『松の伝説』って知りませんか」
「昔話で七国峠の供養松っていう話を聞いたことはあるよ」
その話を管理人さんに話してもらいました。

昔、鎌倉幕府を開いた源頼朝が挙兵したとき、この地を治めていた領主の土屋三郎宗遠が一族を率いて参戦。けれども石橋

「ここが七国峠、遠くまで見えるね」
案内板には、七国峠は平塚市の最西端にあり、標高182メートル、甲斐の国(今の山梨県)、駿河の国(今の静岡県)など七つの国が見えたことから名づけられたとあり、供養松の伝説についても書いてありました。

ふと横を見ると、松の木が。そして、供養松と書かれた札が立っていました。

この松は小さいし、伝説にちなんで後から植えられたのかも



七国峠(土屋)
バス 「井ノ口」経由秦野駅南口行き、「中沢橋」経由秦野駅南口行き「七国峠」下車徒歩10分、大人片道460円



しれません。峠を越える人が休んでいた昔がどんな雰囲気だったのか、ちょっと知りたくなりました。

ここは銭洗い弁天といって、洞くつの中の池でお金を洗うとお金持ちになれるそうです。もちろんわたしたちも洗ってみました。お金持ちになれるかな？

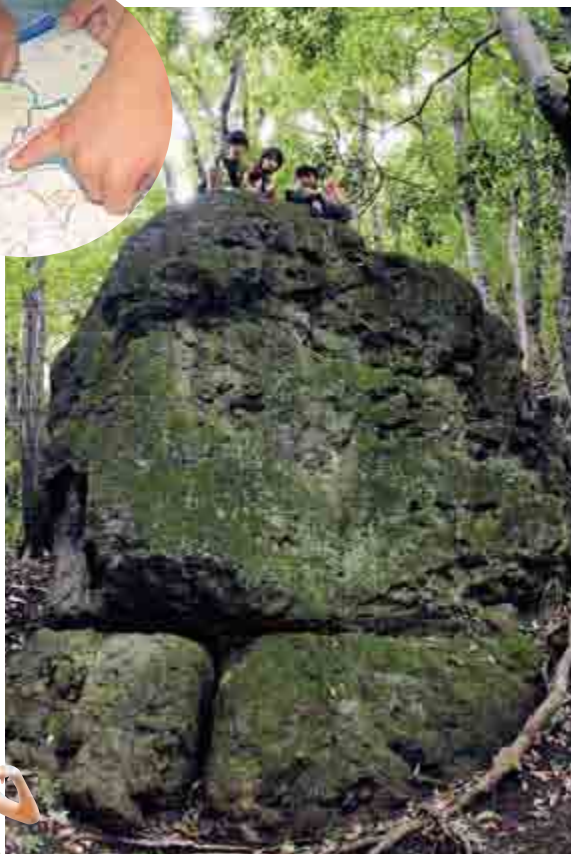
平塚市のハイキングコースとして紹介されている「土屋の古跡をめぐるみち」の途中には、「土屋の弁天さん」として親しまれている妙円寺があります。



弁天さんのご利益があるかな？

寄り道レポート 銭洗い弁天

③ 霧降りの滝・松岩寺 吉沢の山で 伝説の巨石を探せ



左：長い石段がある松岩寺も探検したよ
 上：石の上にいるぼくたちが分かる？
 すごく大きかったよ！



福永達哉さん
 (旭小学校6年)

早川康輝さん
 (金田小学校6年)

五十嵐将紀さん
 (松が丘小学校5年)

○広報編集長 「君たちは吉沢の山に登って、伝説が隠された謎の巨石を探してきなさい」
 ○子ども記者 「そんなこと言ったら、どこを探せばいいの？」
 ○広報編集長 「吉沢の松岩寺まで連れていってあげるから、そこからは自分たちの力がんばりなさい」

そういうわけではなく、三人は松岩寺にやってきました。ながーい石段が続いていて、ここを登るだけでもうヘトヘト。お寺の境内で休憩して、さあ、謎を探しに出発だ！

地図を広げて作戦会議。「近くに霧降りの滝ってところがあるよ」「まずはその滝に行ってみよう」

しばらく畑や森の中を進むと、何やら水の流れる音が。「川だ。きつとこの近くだよ」目の前に現れたのは、大きな

岩が重なってできた滝で、あんな立派な滝があったんだ！「謎の巨石って、霧降りの滝のどっだったんだね」

写真を撮って、謎解きは終了。さあ、帰ろう…。「ちよっと待って。この先に『立石』っていうのがあるって地図に書いてあるよ」。もう少し進んでみようよ！

ここから先は深い山の中。「マムシに注意」とか「イノシシ注意」とか書かれた立て札が…。「お前が先に歩けよ」「いやだよ。お前こそ先に歩けよ」仲良く(？)先頭を譲り合いながら先へと進みました。

もうすぐ山の頂上というところで、「立石140m」の立て札を発見。疲れも忘れて一気に進むと、とっても大きな石が木々の間に姿を現しました。「大きい！これが立石だね！」



松岩寺(下吉沢614)
 バス 平塚駅北口から南原・中沢橋経由松岩寺行きなどで「松岩寺」下車徒歩10分、大人片道310円
 霧降りの滝 松岩寺から徒歩20分
 立石 霧降りの滝から徒歩30分

④ ひらつかさきゅうゆう ば 平塚砂丘夕映え

海岸に輝くダイヤモンドを探せ

ぼくたちは暑い日差しが照りつける平塚海岸にあるビーチパークにやってきました。

海岸ではビーチクラブの人たちが海岸をきれいにしようと、流れ着いたごみを拾っているところでした。

「ぼくたちも手伝おう」

流れ着いたものを拾って探してみただけで、ダイヤモンドは見つからない。多かったのはペットボトル。海岸はきれいにしなければと残念に思いました。

ビーチクラブのイベントが始まりました。せっかく海に来たのだから楽しんじゃえ。

「ぼくたちも参加していいですか」

ビーチ幅跳び、ビーチサンダル飛ばし、すいか割りゲーム、サーフィン体験など、特命のことはすっかり忘れていっぱい楽しみました。



ビーチつてサイコー！

幅跳びしたり、ビーチサン飛ばしたり、すいか割りしたり、サーフィンしたり

○広報編集長 「君たちへの特命は、平塚海岸でダイヤモンドを探してくることです」

○子ども記者 「海にダイヤモンドなんかあるのかなあ？」

「海のことをよく知っている人はいないかなあ」

「ビーチセンターにライフセーバーがいるよ。なにか知っているかも」

海の監視などをしているライフセーバーを訪ねてみました。「海岸のダイヤモンドってなんのことだかわかりますか」

「うん、なにかかな」。富士山の頂上に夕日が沈むことをダイヤモンド富士っていうことがあるけど。太陽が沈んで山の向こうに消えるときキラッと光るよ」「え、そっなの？」

夕方までビーチで過ごしたぼくたちが見たのは、キラッと光って沈むダイヤモンドのような夕日でした。

平塚海岸でダイヤモンド富士が見られるのは、9月5日〜7日ごろで、4月4日〜6日ごろだそうです。



湘南ひらつかビーチパーク
 (高浜台33-1)
 バス 平塚駅南口循環「湘南海岸公園前」下車徒歩5分、大人片道170円



湘南潮来 相模川に沈んだ レールを探せ

○広報編集長 「君たちは相模川に沈んでいるというレールを探して謎を解きなさい」
○子ども記者 「レールって、電車が走るレール？」

わたしたちは「相模川」レール」という言葉をヒントに、相模川にかかるJR東海道線の鉄橋の下に行ってみました。

「ここからではよく分からないね」
「船に乗って調べることはできないかな」
「そこで、須賀港に行ってみることにしました。港に着いたわたしたちは、船の手入れをしていた人に船に乗せてもらえないか頼んでみました。」

「いいよ、乗るな」
船長さんはやさしく乗せてくれました。

鉄橋まで直行！と思ったけれど、なんと潮が引いてきて川の浅瀬で船が動けなくなっていました。その後、しばらく水の上でプカプカ…。暑すぎる日差しがきつ…。川では魚がピョピョンはねています。水上バイクに乗る人たちが気持ちよさそうです。

しばらくすると潮が満ちてきました。船も動けるようになり、電車が通る鉄橋の下までやってきました。橋の間を見てもと大きな四角い石の固まりが川を横切るようにいくつも並んでい



あっちになにか見えるよ！

ました。その近くには、さびた鉄の棒のような物がたくさん落ちていた場所も。

「この石や鉄はなに？」
ひよっとして、この鉄の棒みたいなものが探しているレールでは…。

「船長さん、川に沈んだレールの謎って知っていますか？」
船長さんが教えてくれました。

「聞いた話では四角い石の固まりは今から80年以上前、関東大震災で崩れてしまった橋脚の跡、さびた鉄はそのとき沈んだ電車のレールかもしれないよ」
わたしたちは驚きました。

「大正時代の物が目の前にあるなんて」
「川の底では今もたくさんレールが眠り続けているのかも」

興味は尽きませんが、真相は謎に包まれたまま…。



湘南潮来(相模川馬入橋下流)
バス 平塚駅北口から茅ヶ崎駅行きなどで「馬入橋」下車徒歩10分、大人片道170円



川の真ん中にレールのようなものが…これは一体なんだろう

水中にもレールのようなものが

そういえば、最初に行った河原にも橋脚の跡らしき四角い石がありました。大きさはたまたみ3枚分くらいで、子どもなら6人くらい石の上に立てそうでした。

鉄道からも並んだ橋脚の跡が見えます。東京行きの電車に乗ったときはぜひ、車窓からぞいてみてください。



多田恵さん
(中原小学校6年)

竹本良嬉さん
(旭小学校6年)

原和也さん
(勝原小学校6年)

わたしたちが
調べたよ！

湘南平のてっぺんを探せ

その6 湘南平



○広報編集長 「君たちは湘南平に登っててっぺんを探してきなさい」
○子ども記者 「てっぺんは広場のところじゃないの？」
○広報編集長 「では、それを確かめてきなさい」

そういうわけで、湘南平にやってきました。遠足やお花見で来たことがあるから湘南平のことはよく知っているつもりだったけれど、一体、どこから探せばいいんだろう。

「湘南平はたいら…。どこも高さは同じじゃない？」
「ひよっとして、テレビ塔のことかな」
「あ、そうかもね！じゃあ、詳しくその人に聞いてみようよ」

赤と白に塗られた大きなテレビ塔。この上がてっぺんだっていうことを確かめるために、湘南平レストハウスの管理人さんに話を聞いてみました。

「湘南平のてっぺんって、あのテレビ塔の上のことですか？」
「確かに建物のてっぺんはそこだね。でも山のてっぺんだったらここじゃないよ。今いる広場の高さはだいたい179mで、ここよりもっと高いところがあるんだ。テレビ塔の横にある道から行けるから探してごらん」
湘南平のてっぺんって山の頂上のことなのか。じゃあ、本当のてっぺんを探しに出発だ！

管理人さんが言ったとおり、テレビ塔の横に山の中へ続く道がありました。木の根っこがごつごつ出ていて今にも転んでしまいそう。三人でがんばって



テレビ塔の下を通過して出発だ！



山登りの途中に会いがありました。「湘南平のてっぺん、知りませんか？」



湘南平のてっぺんをみつけたよ！



湘南平(万田)
バス 平塚駅北口から湘南平行き終点下車、大人片道260円



これが浅間社だよ

その7 はちまんやまこうえん
八幡山公園

「ピンクの洋館」の謎を解け

○広報編集長 「君たちは八幡山に行って、ピンク色をした洋館の謎を解いてきなさい」
○子ども記者 「珍しい色の建物だね。怖い所だったらどうしよう」

○広報編集長 「大丈夫だよ。洋館に管理人さんがいるからいろいろ聞いてみるといいよ」

わたしたちが、編集長から指示された洋館は市役所のすぐ目の前、平塚八幡宮という神社がある森の近くにあるそうです。この森一帯が、八幡山と呼ばれているそうです。

さっそく二人で行って見ました。森の中をしばらく歩くと、木々が無くなって芝生が見えてきました。そこに一つの建物が

ありました。「ピンク色の洋館」に間違いなさそう。

「怖い人だったらどうしよう」
「恐る恐る洋館の中に入ると、中に一人の男の人がいました。『あのー。わたしたちはこの洋館のことを調べているんですけ

ど…』
「じゃーすっかり話を聞いてくれるなら教えてあげるよ」
男の人は、この建物「八幡山の洋館」の館長さんでした。館長さんは、この洋館のことや八幡山のことなどをいろいろと教えてくれました。

「この洋館は、明治生まれ。今から100年ぐらい前に建てられたんだよ。海軍の人が利用した時代もあったね。そして横浜ゴムという会社が譲り受けて応接室や会議室として利用していたんだ。その後、この場所に建物ごと引越したんだ。県内でも数少ない明治時代の洋風の建物だよ」

また、ほかに珍しいものがある。この公園にはあるということだ。案内してくれました。まず、案内されたのは平和慰霊塔。この塔の中には、戦争で亡くなった方の名前が書かれた名簿が納められているそうです。そして、

公園の一番西側には人の形が刻まれた記念碑があることを教えてくれました。二人で行って見ると次のようなことが書いてありました。

「戦争で平塚の街がめちゃくちゃになったけれども、みんなで力を合わせてがんばりました。」

この八幡山公園は、戦争のメモリアルパークだったんだね。



記念碑には『昭和20年7月16日に市の中心部が空襲で被災しました。再建のため、市民が中心となり苦難を克服し新しい平塚が誕生しました』ということが記されています



洋館の中の様子(応接室)



八幡山の洋館
(浅間町1-1)
徒歩 平塚駅北口
から15分



平和慰霊塔のことも教えてもらいました

八景の碑があったよ！



このピンク色の建物が、八幡山の洋館。中に入ると明治時代にタイムスリップ！

わたしたちが調べたよ！

▲佐藤愛奈さん
(大野小学校6年)

井内瑞穂さん
(崇善小学校6年)

その8 もり さきとりじんじゃ 森の前鳥神社 幸せの四つ葉の松を探せ

とにかく行ってみよう。でも、その前に前鳥神社について、ちょっと予習。
10世紀初めの古い記録にのっている格式ある神社。祭神は、



これから謎解きにいきます

○広報編集長 「前鳥神社へ行って、幸せを呼ぶという四つ葉の松を探してきなさい」
○子ども記者 「クローバーじゃなくて、松ですか？」
「そんなのあんなのがあるのかあ」

第15代応神天皇の皇太子で、学問の神様です。神社の名前の由来となった「サキトリ」も奈良時代以前からの古い地名だそうです。神社への道すがらおしゃべりしていたら、偶然にも二人とも、この神社のとなりにあるさきとり幼稚園の卒園生でした。この幼稚園では、みんなで協力して物事を完成させるということを学びました。この取材も二人で協力していい記事にしたいな。分からないことは、知っている人に聞くのが一番。神社に着くと、すぐに神職さんを見つけて聞いてみました。

「この神社に『四つ葉の松』というのがあるって聞いたんですけれど…。どこにいれば見つけれますか？」
「ある場所にご案内しましょう。こちらです」

わたしたちが歩き出そうとすると、「鳥居の前では一礼しましょう。それから、神社に来たら、まずは本殿にお参りします。みんなも、人の家にお邪魔するときはあいさつするでしょ。それと同じです」

ここで正しい参拝の仕方を教えてもらいました。手を洗い、口をすすいで、本殿の前に立つたら、二拝二拍一拝です。願い事は、二拍のときに心の中で唱えるのだそうです。そういえば、



やったね！四つ葉の松葉を見つけたよ！

「あつたー」
「わたしも見つけた」
わたしたちはツンとなった四本葉の松葉を拾い上げました。これを身に付けていると幸せになれるといわれています。それなら大事にとっておこうと。これを読んでいるみなさんも、幸せを呼ぶ四つ葉の松を探しに前鳥神社に来てみてください。そのときは、正しい参拝を忘れないでね。



正しい参拝方法を教えてもらったよ

おまけのレポート・前鳥座



前鳥神社には、前鳥座という三人遣いの人形芝居があります。神社のお祭りのときに神楽殿で上演するそうです。取材した日、ちょうど座員の方々がいらっ

しゃって、わたしたちにこの人形を触らせてくださいました。とても重く、身長はわたしたちと同じくらいです。この人形を遣ってお芝居をするなんてすごいと思いました。



前鳥神社
(四之宮四丁目 14-26)
バス 平塚駅北口から旧道經由田村車庫行きなどで「前鳥神社前」下車徒歩5分、大人片道180円

